

移動タンク貯蔵所構造設備明細書

車名及び型式		注 1				
製造事業所名		注 2				
危険物	類別		側面 当 板 材 質 記 号			
	品名	注 3		引張り強さ		
	化学名	注 4		厚		
	比重			N/mm <sup>2</sup> mm		
タンク 元注 5	断面形状		防 護 枠 注 10			
	内側寸法	長さ		mm		
		幅		mm		
	高さ	mm	板厚	mm		
	最大容量	L	閉鎖装置	自動閉鎖装置 有・無		
	タンク室の容量	L	手動閉鎖装置	有・無		
	材料	材質記号		吐出口の位置	左右後	
		引張り強さ	N/mm <sup>2</sup>	レバーの位置	左右後	
	板厚	胴板	mm	底弁損傷防止方法	注 11	
		鏡板	mm	接地導線	有(長さ m)・無	
間仕切板		mm	緊締金具 (すみ金具)	有・無		
防波板 注 6	材料	材質記号	U ボ ルト	材質記号		
		引張り強さ		N/mm <sup>2</sup>	引張り強さ	N/mm <sup>2</sup>
	板厚	mm	箱 材 質 記 号	直径、本数	mm・本	
	面積比 $\frac{\text{防波板面積}}{\text{タンク断面面積}} \times 100$	%		引張り強さ	N/mm <sup>2</sup>	
タンクの最大常用圧力	注 7	k Pa	消火器 注 12	薬剤の種類		
安全装置 注 8	作動圧力	k Pa	個	薬剤量	kg	
	有効吹き出し面積	cm <sup>2</sup>		個数	個	個
側面 枠 注 9	材料	材質記号	備 考 注 13	可燃性蒸気回収設備		有・無
		引張り強さ		N/mm <sup>2</sup>		
	板厚	mm				
	取付角度					
	接地角度					

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とすること。

## 記載要領

### 移動タンク貯蔵所構造設備明細書

- 注 1** 「車名及び型式」欄
- 車体の名称及び型式を記入する。
  - 単一式、被けん引式の別及び積載式、積載式以外の別を記入する。  
(例) 単一式(積載式)、被けん引式(積載式以外)
- 注 2** 「製造事業所名」欄は、移動タンク貯蔵所を製造した事業所を記入する。(タンクの製造メーカーではない)
- 注 3** 「危険物」欄の「品名」は、2以上の品名の危険物を貯蔵するものにあつては、当該2以上の品名を記入する。
- 注 4** 「化学名」は、通常化学名が用いられない物品の場合は、通称名を記入する。
- 注 5** 「タンク諸元」欄
- 「断面形状」は、移動貯蔵タンクの移動方向に直角の断面の形状について、「だ円形」、「円形」、「特殊形状」等と記入する。
  - 「内測寸法」は、だ円のタンクにあつては、その長径を幅とし、短径を高さとして記入し、円形のタンクにあつては、その直径を幅及び高さとして記入する。
  - 「最大容量」は、タンクの内容積から空間容積を差し引いた容量を記入する。
  - 「タンク室の容量」は、車両の移動方向の前方からタンク室に順番号を付しての容量を記入する。(第1槽 4000 リットル、第2槽 2000 リットル等)
  - 「材質記号」は、タンクの材質が日本工業規格のあるものにあつては、JIS記号を、JISのないものにあつては、通常用いられている記号を記入する。(SS400, SU304等)
  - 「引張り強さ」は、材質に対応した数値を記入する。
- 注 6** 「防波板」の欄
- 「材料」は、前記5の e, f による。
  - 「面積比」は、車両の移動方向の前方からタンク室に順番号を付して、タンク室の移動方向の最大断面積に対する防波板の面積の占める割合を記入する。なお、面積比の数値は、小数点第2位を四捨五入する。
- 注 7** 「タンクの最大常用圧力」欄は、タンクの最大常用圧力が 20 kPa 以下のタンクにあつては「20 kPa 以下」と記入し、20 kPa を超えるタンクにあつては、その数値を記入する。
- 注 8** 「安全装置」欄
- 「作動圧力」は、安全装置の作動圧力の範囲を「 < P 」と記入する。
  - 「有効吹き出し面積」は、車両の移動方向の前方からタンク室に順番号を付して各室の有効吹き出し面積を記入する。
- 注 9** 「側面枠」欄
- 「材料」は、上記5の e, f による。
  - 「取付角度」は、貯蔵最大数量の危険物を貯蔵した状態における当該移動タンク貯蔵所の重心点と、当該側面枠の最外側とを結ぶ直線と当該重心点から最外側線におろした垂線のなす角度を記入する。
  - 「接地角度」は、側面枠の最外側と移動タンク貯蔵所の最外側とを結ぶ直線と地盤面とのなす角度を記入する。
  - 「当て板材料」は上記5の e, f による。
- 注 10** 「防護枠」欄
- 「材料」は、上記5の e, f による。
- 注 11** 「底弁損傷防止方法」欄
- 配管による方法又は緩衝継手による方法等底弁の損傷を防止する方法を、その方法に応じて「配管」又は「緩衝継手」等と記入する。
- 注 12** 「消火器」欄
- 「薬剤の種類」は、消火薬剤の種類を「第5種粉末ABC消火器」、「二酸化炭素消火器」等と記入する。
  - 「薬剤量」は、1の消火器の消火薬剤の量を薬剤の種類ごとに記入する。この場合、同種類の薬剤で1の消火器の消火薬剤量が異なるときは、それぞれ別の欄にその量を記入する。
  - 「個数」は、消火器の個数を薬剤の種類及び薬剤量の項の記入内容に合わせて記入する。
- 注 13** 「備考」欄
- 保温又は保冷装置を、設ける等特殊な構造又は設備の移動タンク貯蔵所にあつては、その旨を記入する。